

編集後記

『社会科学年報』第47号をお届けします。今号は論文8本、研究ノート2本の掲載となりました。

今年度後期、前編集委員長の学部長就任にともない、編集委員会体制の組み替えが行われ、玉突きのおそらく二階級特進で私に編集委員長のお鉢が回って来ました。重責の自覚、編集技量と知識に欠けたまま本号編集作業が走り出し、どうなるものかこの秋は胃の痛む日々でしたが、手際よく事務をこなしていただいた土屋さんのおかげで、また、迅速・精確に印刷業務を進めていただいた佐藤印刷のおかげで、こうして例年のように刊行の運びとなりました。皆様に感謝いたします。そして何より、執筆いただいた先生方に、入稿メ切、校正日時を厳守していただいたこと、感謝いたします。

最近数号では、年報執筆者の募集、入稿、あるいは執筆辞退のやりとりの時期と段取りを見直してきた結果、秋の編集体制がスムーズに進むようになってきました。参与の先生方の投稿

に加えて、所員の皆様の投稿が増えてきたことも特筆しておくべき変化の一つではないかと思えます。

前編集委員長の編集後記は毎号、歴史・社会認識に深く切り込む、それ自体で書評ともなりうる読み応えのあるものでした。2012年12月、衆院選の結果が判明しましたが、大きな転換期を迎えたこの政治的现实において、社会学的災害研究を専らとする私が東日本大震災について発言すべき事柄は山積していると理解しているものの、この大局を押さえた上で言及するには力及ばぬ自身に忸怩たる思いです。

先日、社研の100回記念所員総会が開催され、所長のご挨拶において端的に、その歴史が紹介されました。山田盛太郎所長（第3代）による社研再発足から50年（計100回の所員総会）をこえ、ますますの発展が祈念されるところです。社研の表看板の一つ、『年報』の編集業務も、さらに気持ちを引き締めて重ねて行きたいと考えております。（大矢根淳）